

八幡市長

堀口 文昭様

2020年度

八幡市予算に対する要望書

2020年5月

日本共産党八幡市議会議員団

団長 山本 邦夫

2020年度 八幡市予算への要望事項

2020年5月 日本共産党八幡市議会議員団

<はじめに>

コロナ感染対策による学校の長期休校、休業による減収などで、市民生活に大きな影響が出ています。こうした時期だからこそ、憲法を生かして市民の健康と暮らし、営業を大切にする市政運営が必要です。

八幡市として憲法を生かす立場を明確にすること。憲法9条の平和原則、25条の生存権保障など、憲法を生かして平和、暮らし、民主主義を大切にする市政運営に努めること。

大規模災害に備え、八幡市においても「災害に強いまちづくり」の視点で市政運営に努め、防災事業を抜本的に強めること。

<憲法・地方自治法の立場を尊重し、国に態度表明すること>

- 憲法を生かし、市政に反映すること。とりわけ9条の平和の理念、25条の暮らし・福祉を守る視点を大切にする。
- 自衛隊の海外派兵に反対すること。
- 若狭湾の原発をはじめすべての原発再稼働に反対すること。国にたいし、「原発」ゼロに向けたエネルギー政策の抜本的転換を強く求め、再生可能エネルギーを普及すること。
- 消費税の減税を国に求めること。
- 日本の経済主権・食料主権を尊重し、日本経済、農業、医療保険制度を守る立場を貫くよう国に求めること。
- 政府による医療と介護の連続改悪に反対すること。生活保護改悪、年金削減に反対すること。

<ただちに取り組む緊急対策>

- 大阪北部地震時の経験を生かし、大規模災害時に災害救助法、被災者生活支援法を的確に適用する姿勢を鮮明にすること。「一部損壊」の住宅も対象にした住宅復旧支援にとりくむこと。
- 避難所である学校体育館にエアコンを設置するため、残された小学校にも計画的にエアコン設置すること。
- 夜間の小児救急体制を整備するため、市内および周辺病院での医師・看護師の確保を支援するよう府に求めること。

- 子どもの医療費無料化を高校卒業まで拡充すること。
- 国民健康保険料は、0～18歳の均等割（1人3万5000円）を市独自に軽減すること。国に対し1兆円の公費投入を求め、国保の全世代の均等割、平等割を廃止すること。
- 65歳から74歳の高齢者の医療負担を1割に軽減すること。
- 後期高齢者医療、介護保険の各保険料を引き下げること。
- 後期高齢者医療の軽減制度を復活・拡充するよう、国に求めること。
- 介護保険における国の調整交付金は、国が介護保険の25%を負担し、高齢化率の高い地域などへの補助は加算する形に改善するよう求めること。
- 公共交通対策予算を2倍に増やし、バス交通を充実すること。
- 70歳以上の高齢者バス助成制度を復活すること。
- 上下水道基本料金減免制度を復活させること。生活保護受給者も対象に加えること。
- 幼稚園、小学校、中学校において、少人数学級を実施すること。
- 小学校での専科教員（英語以外）が2校に配置されたが、今後、配置校を増やし、全校での専科教員の配置をめざすこと
- 中小企業地域振興基本条例を策定し、中小企業・小規模事業者への支援にとりくむこと。市内事業者の悉皆（しっかい）調査をおこなうこと。
- 商店街、スーパーがとりくむ高齢者宅への宅配サービスを支援すること。
- 城南衛生管理組合の沢工場における中継拠点が整備されるまでの間、プラスチックごみの回収を暫定的に毎週実施するために委託収集を増やして対応すること。
- 自然破壊につながるメガソーラー（大規模太陽光発電）の開発を認めないこと。
- 公共施設総合管理計画について。①市庁舎の建て替えについて、市民への情報公開をすすめる、市民の声を生かしてとりくむこと。経費の縮減に努めること。②学校跡地については売却ではなく、市民参加のワークショップを開催するなど地域住民のニーズをくみ上げ、活用計画を具体化すること。
- 市税や国保料などの差し押さえについて、市民への十分な説明がないままの差し押さえを中止すること。生活に直結する差し押さえをしないこと。
- 地域ごとにタウンミーティングを開き、市民の声をよく聞き、市民の声が生きる市政運営につとめること。

分野ごとの要望事項

＜子育て支援、若者の雇用＞

- ・「子どもの貧困に関する実態調査」を実施すること。
- ・ひとり親家庭、子ども、障害者、高齢者の医療費助成など福祉医療において、大阪府など京都府外での窓口給付が受けられるようにすること。
- ・中学校給食について補助の拡充を、国、府に求めること。
- ・ひきつづき、公立高校・私立高校の授業料無償化・負担軽減を継続できるよう国・府に働きかけること。大阪府など他府県の私立高校も減免対象にするよう求めること。
- ・高校生への通学費補助を創設すること。高校生の通学補助の適用条件の緩和を府にもとめること。
- ・保育所・認定こども園の給食費（副食代）を無償化すること。保育士など職員の待遇改善、増員につとめること。
- ・公立保育園の耐震補強、老朽化対策にとりくむこと。
- ・学童保育のマンモス化を解消すること。学童保育の指導員の増員、環境整備につとめること。学校から学童保育施設への移動において、信号などが整備されていない箇所については、安全対策を講じること。
- ・就学援助の対象項目にクラブ費なども適用し、制度を拡充すること。
- ・保護者の教育費負担軽減のために、修学旅行費、学校給食などを対象にすること。
- ・欽明台地域の開発、新名神開通に伴う道路整備にともなって、男山東中学校での自転車通学地域については、通学圏などを考慮して柔軟に対応すること。
- ・子育て支援センター「すくすくの杜」は、3歳以上の子どもの利用を可能にするなど、市民の声を聞いて運営を改善すること。
- ・若者世帯、子育て世帯の住宅補助に取り組み、定住支援、結婚・子育てしやすい環境整備につとめること。
- ・国にたいし①大学学費の負担軽減、②学生の無利子奨学金制度や給付制奨学金の創設・拡充を求めること。奨学金返済者の負担を軽減する利子補給制度の創設を求めること。
- ・小中学校の大規模改修を計画的に実施すること。その際エレベーターを設置すること。
- ・スタディサポート事業は、契約方法をはじめ目的、受講内容、対象者、実施主体など、検討すべき課題が多くあるので、事業そのものの在り方を再考すること。

<くらし・福祉>

- 介護保険の利用料、後期高齢者医療の窓口負担について1割負担を堅持すること。
- 介護保険利用料について低所得者の減額・免除措置を講じること。
- 介護労働者の処遇改善を目的にした交付金を支給すること。
- 介護認定にあたり、申請者と家族、かかりつけ医、ケアマネージャーの意見をよく聞き、生活実情を踏まえた判定をすること。
- 要介護1、2の人の生活援助、福祉用具貸与・購入の介護サービスを削減しないように国に求めること。
- あんしんサポートハウスなど低所得者向け施設を増設すること。市内のサービス付き高齢者向け住宅（サ高住）の空き情報を把握し、市借り上げの低所得者向け住宅として活用を検討すること。
- 無料低額診療を実施する医療機関を市内に増やすこと。市ホームページで無料低額診療について情報提供すること。
- 国民健康保険で資格証明書を発行しないこと。1カ月の短期保険証をやめること。
- 高齢者や障害者、乳幼児を連れた家族など「交通弱者」の交通支援策を検討すること。
- 障害者支援の「応益負担」撤回、サービス利用料の無料化、サービス等利用計画を担う相談支援事業の報酬引き上げを国に強く求めること。グループホーム、ケアホームへの助成の拡充、障害者施設で働く福祉労働者の待遇改善をはかること。
- 障害者福祉の地域生活支援事業について、国にたいし、自立支援事業と同等の補助金が交付されるよう求めること。
- 障害者のガイドヘルプ事業について、利用基準などを明確にすること。
- 生活保護における住宅扶助を大幅に改善するため、国に強く求めること。市として独自に住宅支援策を講じること。就労対策において過度な就労指導をしないこと。子どもの大学・専門学校進学に際し、教育費、住居費・生活費への扶助を充実すること。
- シルバー人材センターへの委託契約において、厚生労働省のガイドラインに基づき、最低賃金を下回らない設定とすること。
- 使っていない府営水1.3億円分について、京都府に基本水量の見直しを求めること。
- 水道事業の運営を民営化しないこと。滞納者への対応で機械的に給水停止しないこと。
- 下水道基金1.9億円を活用して下水道料金を値下げすること。

〈まちづくり・地域経済〉

- 石清水八幡宮駅前のスーパーの営業復活に向けて、市が尽力すること。
- 美濃山、欽明台での大型店ラッシュ、交通渋滞など無計画なまちづくりから、住民の声を尊重したまちづくりに転換すること。
- ネクスコ西日本にたいし、新名神高速道路の建設、延伸に関連し雨水調整池の設置状況を適宜議会に報告すること。インター線を含め、環境、騒音対策を求めること。
- 新名神高速道路とアクセス道路による交通量の増大にたいし、大気の汚染状況を継続的に観測できる体制をとること。
- 今後の小学校での空き教室の状況を見据え、地域に開かれた学校の在り方を検討し、地域図書館、コミュニティ施設などを検討すること。学校体育館の市民利用は、スポーツ団体だけでなく、文化団体も利用できるように改善すること。
- 生活道路や公園の整備をすすめること。
- 市内の公園について、高齢者の健康維持、レクリエーションに役立つ利用ができるように配慮すること。
- 男山団地の再生問題では、UR都市再生機構の団地縮小計画の撤回を求め、住民参加で住環境の整備に取り組むこと。「地域医療福祉拠点」に位置づけられている男山団地において、今後のエレベーター設置を計画的にすすめること。高齢者優良賃貸住宅を増やすこと。子育て・若者世帯を増やすために、府市が連携して若者・子育て世帯への家賃補助にとりくむこと。家賃滞納世帯（滞納期間3ヶ月）に対し、機械的な退去命令を乱発せず、ていねいな対応をもとめること。
- 府営住宅にエレベーターを計画的に設置するよう府にはたらきかけること。国や府にたいし、分譲マンションでのエレベーター設置や大規模改修への助成制度を求めること。
- 商店街の空き店舗を活用して、商店街活性化を支援すること。（新規出店、リフォームへの支援。商店街、NPOによるコミュニティゾーンなどの利用支援）
- 経済効果が明らかな住宅リフォーム助成制度を創設すること。
- 大型店の出店を規制し、経済の軸足を中小企業にすえること。大規模な施設、工場、住宅地の開発にあたり、雨水調整機能を確保するよう要請すること。
- 学校の改修など小規模の公共工事を市内の中小業者に発注すること。
- 石清水八幡宮や流れ橋、松花堂など貴重な観光資源を生かし、魅力を発信すること。観光資源を結ぶ散策路やサイクリングロード、公共交通網の整備をすすめること。
- 国の種苗法の改定は、農家が収穫物の一部を種苗として育成する「自家増殖の権利」を制限する内容を含んでおり、種苗法の改定に反対すること。

- 八幡山田、内里地域など市内各地での土砂の不法投棄について、府と市が連携を強め、事業者に原状回復を求めること。事態が進展しない場合は、法的措置も含め検討すること。事前対策として、農業者、事業者にたいし、農地保全対策の趣旨を周知すること。
- 農業の振興のため、後継者対策に取り組むこと。若者の農業参加を促すための支援策、地産地消の取り組みをすすめること。地元農産物の流通・販売を促進すること。
- 府道長尾八幡線（久保田交差点付近～国道1号線間）の歩道をふさぐ違法駐車を取り締まるよう府・八幡警察署に要請すること。特定事業者が市道に解体車両を留め置いている事態をチェックし、改善させること。

＜公共交通、バスの充実＞

- 八幡市駅周辺整備を京阪電車と協議し、地元の意見をふまえてすすめること。
- 橋本駅整備について、駅の整備計画を住民参加の下にすすめること。
 - * 市道橋本南山線の高架化にともない、橋本ロータリー・北樟葉方面との交差点に信号を早期に開設するようはたらきかけること。
 - * 自転車・バイク駐輪場について、通勤・通学の定期券利用を可能にするよう京阪電鉄に働きかけること。
 - * 橋本公民館の駐車場スペースの増設を検討すること。
 - * 駅前整備に関連し、公会堂や店舗の移設について、ていねいな説明をすること。
 - * 駅西側地域の今後の整備の在り方について、住民の要望を聞くこと。
 - * 15階建て高層マンションが計画されようとしているが、都市計画の変更を伴うもので、周辺の住環境にも大きな影響をもたらします。市として慎重に対応すること。計画の全体像を住民にすみやかに公開するよう京阪電鉄に要請すること。
- バス路線の新設をはたらきかけること。
 - [八幡市駅・市役所周辺～欽明台地区～松井山手駅]
 - [八幡市駅～阪急沿線]
 - [八幡市駅・市役所周辺～京都岡本記念病院]
 京阪バスが運転手を増員できるよう働きかけるとともに、国や府の支援を要請すること。
- バス路線の増便、新路線の開設などコミュニティバスや公共バス路線の整備をはかること。バス停の整備をすすめること。バス乗換時の料金助成を充実すること。
- 国の補助制度の増額を要請し、公共バス、コミュニティバス、デマンドタクシー・バスなど新しい交通ニーズにこたえること。

<防災計画>

① 災害に強いまちづくり

- 京都府や八幡市が制度化している地域再建被災者住宅支援について、一部損壊の家屋に対しても適用すること。
- 木造住宅耐震改修助成の適用を拡大し、1981年の新基準による住宅にも恒常的に適用できるように改善すること。
- ライフライン施設、河川堤防、がけ崩れや土石流など、災害危険箇所の調査、点検、それに基づく補強などの対策に取り組むこと。
- 避難所となる学校に、緊急の食料、衛生用品など備蓄倉庫を設置すること。
- 避難所では過密状態を避け、生活環境を整えること。
- 防災備蓄において、感染症に対応したマスク、消毒液、防護服などを増やすこと。
- 防災備蓄について、アレルギー食品を対象品目ごとに一定数確保すること。
- 避難所における食事や衛生環境として、段ボールベッドや仮設テント、キッチンカー、トイレやシャワーなどを備えるため、国が都道府県と連携して広域的に備品を準備するよう働きかけること。
- 防災力の強化…防災無線の整備をすすめ、難聴箇所の改善にとりくむこと。ボランティアを含めた住民協力による防災体制を確立すること。高齢者や障害者をはじめ住民の安全な避難体制を確立すること。
- 国基準に比べ少ない消防職員を大幅に増員すること。消防水利の整備など消防力を強化すること。
- 消防庁舎の分署建設において、水害に対処できる場所に立地すること。
- 公共施設や病院の耐震化、木造住宅の耐震診断と耐震補強をすすめること。液状化対策を検討すること。
- 防災時の市民への情報発信を改善すること。ホームページなどの記述、表現について、市民に分かりやすい表現を工夫すること。
- 京都府の河川改修予算の拡充を求めること。木津川の破堤・決壊を防ぐための対策を強化すること。
- 木津川の破堤による水害時の避難箇所・経路について、住民参加で具体的な避難計画を策定すること。
- 新名神高速道路の開通に関連し大谷川・御幸谷川などの水害対策を強め、雨水排水計画を整備すること。雨水調整池の計画をすすめること。大型施設、工場、住宅地の開発にあたっては、防災対策・雨水調整機能の確保につとめること。

- ・市内小規模河川の排水機能の強化、八幡排水機場の能力アップ、科手樋門の設置、上津屋樋門へのポンプ場設置を具体的に検討すること。

② 原子力防災について

- ・各国への「原発輸出」計画が行き詰まり、原発推進政策が暗礁に乗り上げているもとで、八幡市としても原発ゼロを政府に求めること。
- ・市役所、公共施設の使用電力について、原発に依存する関西電力との契約を見直し、新電力への契約をすすめること。
- ・高浜、大飯原発などの再稼働に反対すること。高速実証炉など核燃料サイクルを断念するよう政府に働きかけること。
- ・原発から80キロ圏内にある八幡市でも被ばくを想定した避難計画を策定すること。
- ・安定ヨウ素剤を配備し、全市民分を確保すること。学校や保育園・幼稚園・認定こども園の給食について放射能測定検査をおこなうこと。
- ・原子力防災について、市民啓発に努めること。

<市政運営>

- ・核兵器廃絶の立場に立って、平和首長会議に参加すること。核兵器禁止条約に参加するよう政府に求めること。
- ・個人情報保護のため、市民や事業所への各種通知書にマイナンバーを記載しないこと。
- ・マイナンバー制度について、カードの普及や利用を広げないこと。
- ・生活情報センターの相談体制の充実を図ること。そのための財源確保に努めること。
- ・「男女共同参画社会基本法」を生かした施策をすすめること。女性相談や研修、交流などの活動を保障すること。
- ・同和事業を終結し、公正な市政運営につとめること。部落差別固定化に道開く「部落差別解消推進法」による「同和関係者」の洗い出しにつながる実態調査に協力しないこと。
- ・人権交流センターについて、希望者が日曜日も利用できるようにすること。
- ・地域交流支援事業をやめること。

- 特定の小中学校の児童生徒に利用が集中している教育集会所を廃止すること。
- 一部の運動団体の行事、集会への市職員の公務派遣、部落解放八幡市実行委員会を通じた職員派遣をやめること。
- 山城人権ネットワークの解散を働きかけること。
- 公営住宅の管理運営において、不適正入居・不正改造をただちに解消し、長期滞納を解決すること。
- 入札の透明化を図り、談合などを排除し、公正な入札制度を確立すること。
- 入札におけるプロポーザル方式を改めること。競争性、透明性を高めること。
- 低価格入札にたいする調査制度を検討すること。
- 公契約条例を制定し、公契約における下請け、労働者へのしわ寄せ防止、単価改善につとめること。労働関係法令の順守、適正な単価確保につとめること。
- 市政に携わる市職員、会計年度任用職員の労働条件の改善に努めること。とりわけ賃金や有給休暇などの格差の是正、待遇改善に努めること。
- シルバー人材センターとの契約において、最低賃金を保証すること
- 最低賃金の大幅な引き上げを国に求めること。市においても、今すぐ時給1000円以上に引き上げ、さらに1500円をめざすこと。
- 賃金引き上げを保証するため、中小企業への支援を強めるよう国に求めること。八幡市としての中小企業支援策にとりくむこと。
- 外国からの居住者増加にたいし、労働基準法など雇用、労働面での対応、税や年金、医療など社会保険、教育、福祉、生活上のルールなどの理解を促進するため、言語や説明資料などを工夫し、わかりやすい説明に改善すること。

以上、よろしく申し上げます。